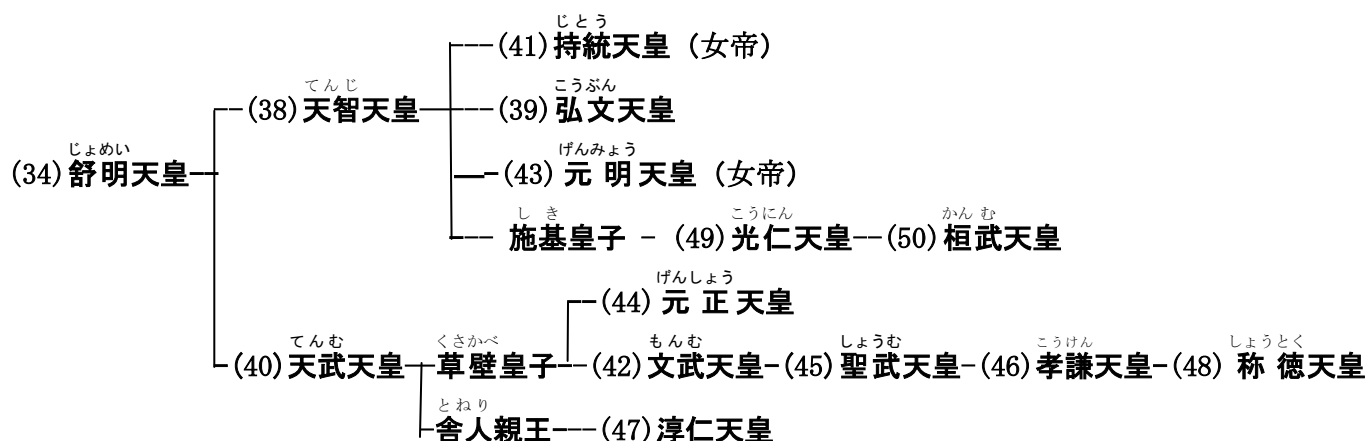


第21話 奈良の都

文化の発達につれて、今までのような小さな都では不便が多くなった。

元 明天皇の御代に、始めて広大な都を奈良に奠められた。

文武天皇は在位11年でお崩れになったが、その時、皇子はまだ七歳のご幼少でしたから、天皇の御母（天智天皇の皇女）が立って、第43代元 明天皇となられた。



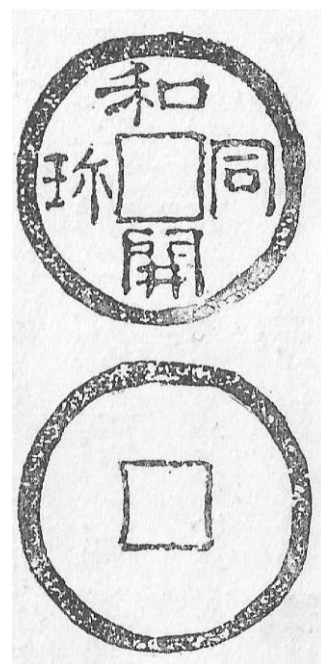
ご即位の翌年に、武蔵の国から和銅を献じたので、元 明天皇は大いにお喜びになって、年号を和銅と改め、その銅で銭を鑄させて、文字を「和同開珎」と記せられた。これがわが国で文字が入った銭を鑄た始めであると伝えられています。

奈良奠都

さて、天武天皇が都を大和の飛鳥にお置きになり、浄見原宮においでの際に、持統天皇はその近くに藤原宮を営まれて都とされ、文武天皇もその宮においでになった。しかし、この藤原宮は畝傍、耳成、香具の三山に在って、土地が狭く、交通の便も悪かったので、元 明天皇は新たに奈良の地をお選びになり、都をそこに奠められました。これを平城京（平城京）といいます。この奈良の都は今までにない大きなもので、宮殿も立派であれば街々も整っていたので、この後は久しく都を遷すということがなかった。

これまでの都

一体わが国では、昔は新たに天皇がお立ちになる毎に宮殿を改められて、都を遷すならいでした。これにはいろいろの原因があったでしょうが、何事も簡易な時代であり、都といっても大きなものではなく、宮殿にしても恐らくは粗末なものでしょうから、容易に遷すことが出来たのでしょう。



和同開珎

第21話 奈良の都

それに、建築術の幼稚な時代のことで、大抵二三十年経つと、宮殿は新しく造りかえなければならず、場所を他にお定めになると、それでもう都が遷ったことになったし、又、昔は人の死んだ場所を穢れるといって大いに嫌ったので、先帝がお崩れになると、その地を離れて、外の御殿でご即位になり、そこを都とされたこともあったでしょう。

又、新帝がこれまでお住まいになっていた御殿をそのまま皇居とされたし、御巡行などをなされた折に、お気に入った地を皇居の地と定められた場合もありました。又、お政治をするご都合の上から遠い所へお遷りになったのでしょう。

こうして、天皇の御代毎に大抵ご遷都があり、時にはご一代の間に数ヶ所も都をお代えになったことさえありました。実に神武天皇の橿原奠都以来、42代の間に、大和の国内だけで39ヶ所の外に、河内、摂津、山城、近江の各国にまで数ヶ所も都を遷されたのでありました。しかし、それがすべて極めて簡単に行われたので、大した費用もかからず、人々が苦しむというほどのこともなかったのです。

大都需要

ところが、推古天皇の御代から中国との交通が始まり、留学生なども出すようになったおかげで、わが国の文化は進み、世間の様子も変わって来ました。都は政治の中心地として大いに栄えると共に、住む人の数が多くなるにつれて、商業の中心地ともなり、又、建築術も発達して、宮殿のづくりなども大きく立派になったので、都を遷することが次第に容易ではなくなりました。

それで、大化の新政の時には、既に帝都のきまりを定められて、摂津の難波に新式な大きな都を営まれ、孝徳天皇はそこで新政を行われました。しかし、その地には色々不便な事もあったりして、次の齊明天皇は元の飛鳥の板蓋の宮にお帰りになり、その後、代々の天皇はまたもや都を方々にお遷しになった。

それが元明天皇に至り、ついに御父天智天皇のお志を遂げさせられて、都を奈良に奠められることになったのであります。

奈良の京

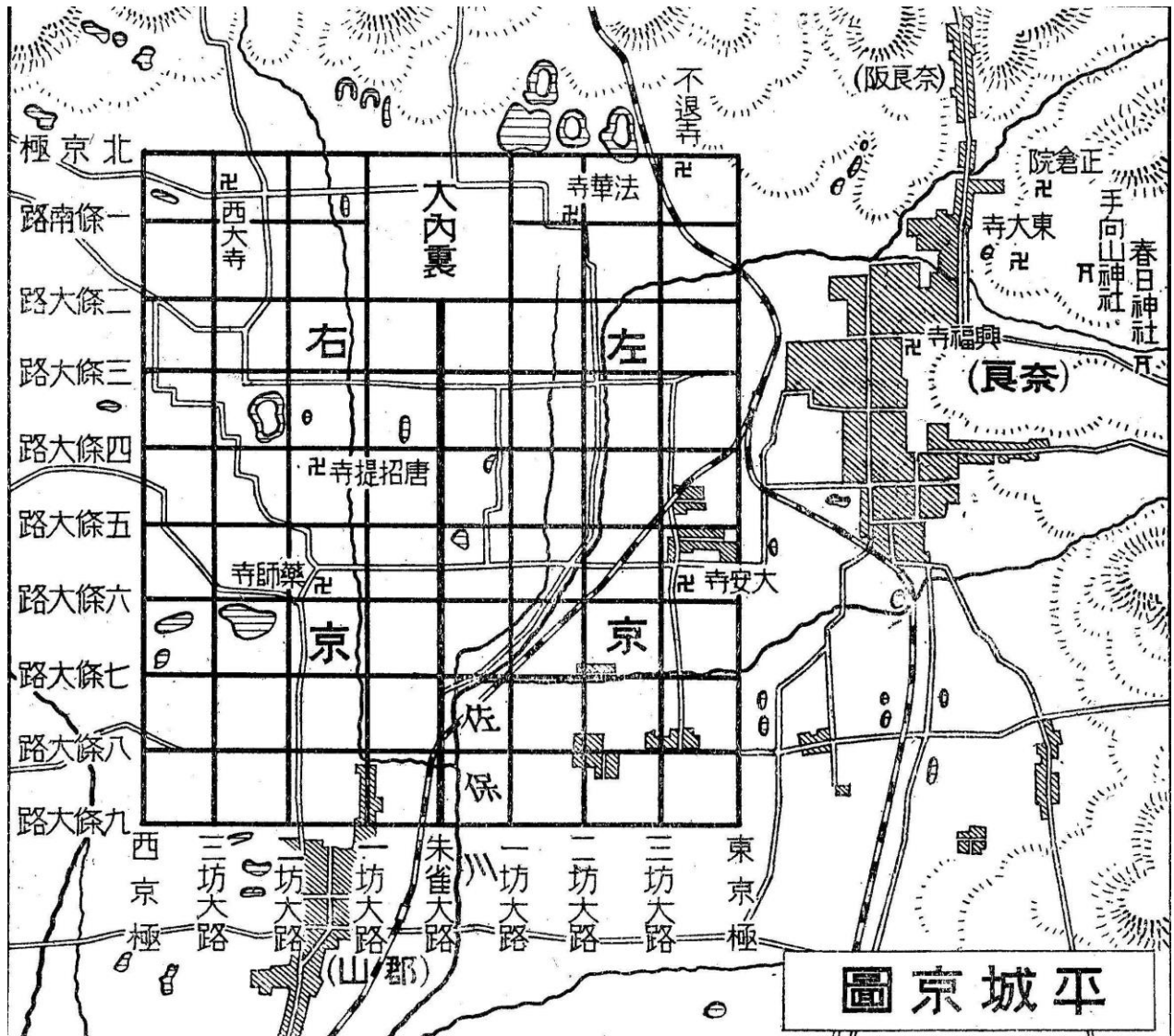
奈良の都は今の奈良市の西に在って、東西約40町(約4.5km)、南北約45町(4.9km)の長方形の地でありました。和銅元年11月に工事にかからせて、和銅三年正月元日には、この新都の大極殿で朝賀の式をお挙げになったが、その時には宮殿の全部はまだ出来上がっていなかったもので、お遷りになったのはその年の三月でした。実に西暦710年で、今から1300年以上も前であります。

都の街路は碁盤の目のように縦横に正しく通っていました。中央に広い大路を南北に通じたのを朱雀大路といい、それに依って分かれた東を左京、西を右京といった。左右の両京には朱雀大路と平行した四つの大道があり、一坊大路、二坊大路、三坊大路、四坊大路といい、それをまた東西に一條から九條までの大路が横ぎっていた。

朱雀大路が北に突当たったところに大内裏があり、皇居を始め、いろいろの役所がその中に建てられていた。大内裏の広さは凡そ八町四方であったということです(町は約109m)。朱雀大路の南の端に

第21話 奈良の都

は、都の総門ともいうべき羅生門がありました。



奈良の地図

奈良時代

この都がいかに大きな、立派なものであったかということは、ここに掲げた図で今の奈良市と比べてみると分かります。それで、この後は都を他に遷すことが容易には出来なくなったので、元明天皇から光仁天皇までの七代、七十余年の間は、この奈良の都で天下を治められました。この間を奈良時代といっています。今日、この都の跡は大抵田畑となっているが、大極殿の址だけは今も芝生となり一段高く、村の田圃の中に残っています。

さて元明天皇は在位九年で御位をお譲りになり、文武天皇の姉が立って第44代元正天皇となりました。文武天皇の皇子がなおまだご幼少でしたためです。

美濃の養老の滝の水が孝子のために酒にかわったので、年号を養老と改められたというのは、この天皇の御代の事です。



岐阜 養老の滝の水が、孝子の為に酒に変わる

(第21話 ^{なら}奈良の都 ^{みやこ} 終わり。 次は一旦前頁に戻り、 第22話 ^{しょうむ}聖武天皇と仏教 へ)